

LIBRARY NOW

公共図書館新設館レポート

海外と日本

2019 年春号

クロスカルチャー出版

CROSSCULTURE PUBLISHING COMPANY (CPC)

〒101-0064

東京都千代田区神田猿樂町 2-7-6

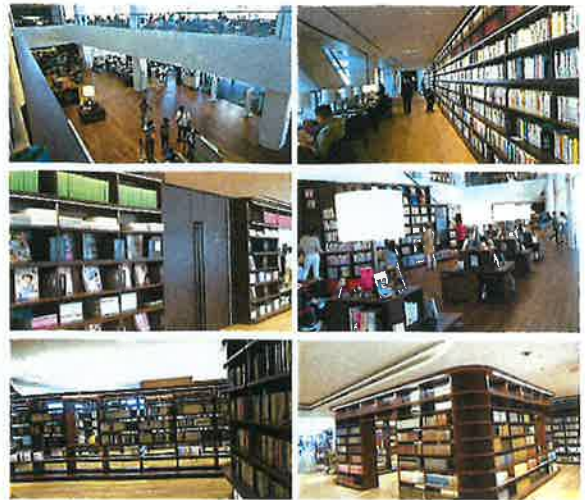
☎03-5577-6707 ファクス 03-5577-6708

<http://crosscul.com>

【大和市立図書館】



6	多目的ホール(イベントホール) 大和市民会館(大和市民会館) 大和市民会館(大和市民会館) 大和市民会館(大和市民会館)
5	大和市民会館(大和市民会館) 大和市民会館(大和市民会館) 大和市民会館(大和市民会館)
4	大和市民会館(大和市民会館) 大和市民会館(大和市民会館) 大和市民会館(大和市民会館)
3	大和市民会館(大和市民会館) 大和市民会館(大和市民会館) 大和市民会館(大和市民会館)
2	大和市民会館(大和市民会館) 大和市民会館(大和市民会館) 大和市民会館(大和市民会館)
1	大和市民会館(大和市民会館) 大和市民会館(大和市民会館) 大和市民会館(大和市民会館)
B1	大和市民会館(大和市民会館) 大和市民会館(大和市民会館) 大和市民会館(大和市民会館)



【写真左:大和市立図書館外観 大和市立図書館 』図書館雑誌 』(Vol.112, No.2 2018年2月号より) 写真右:図書館内部。写真は全て小社編集部=撮影】

2016年11月3日に場所を替えオープンした大和市立図書館。オープンして1年半、ハードとソフトの両面で画期的な試みが奏功したのが、300万人以上の来館者があり今や日本一の図書館に。何しろ今までの図書館のイメージを覆して縛りをなくし、自由に読書できる空間を提供したことがウケたらしい。逆転の発想もこうなるとアップレというほかない。館内での飲み食いは自由、スタバとローソンも入って、芸術文化ホール、生涯学習センター、キッズが遊べる場所や小さな学び空間などもあり、子どもから大人まで読書しながら楽しめる、それが文化創造拠点 SiRiUS、言わば、リテラシー改革の発信基地だ。心に響く・心が躍る・心をつなぐがキャッチフレーズ。地域の牽引力としての公共図書館の未来形(will)が少しみえた。

さて、入館。趣のあるがっしりとした旧館は何度が訪ねたことがあるが、新館は、周辺が整備されて更に駅に近くなった。外観は何となく“環境に優しい要塞基地”を思わせる”コンテンポラリーな建築物である。1階から6階までコンセプトが明確なレイアウト(1階~3階まではエスカレーターでそれ以上はエレベーター使用。もちろん階段も利用可能)、ブラウン系の落ち着いた棚の色、本や雑誌など大きな数字で分かりやすくジャンル分けして配置、快適に読書できるよう用途に応じた机や椅子の組み合わせ等々斬新な試みがいくつも目についた。5階には本や雑誌などが自由に検索できる端末機と貸出等が簡単にできる端末機が置いてある。スキャナー技術が進化し、その技術の応用が貸出や返却のシステムにもみられる。特に高校生のプチグループや中高年が目立ったが、キッズ連れのファミリーも、中には車椅子で来館した元気な年配者もいた。4階は健康都市図書館と命名された健康に関する本や雑誌が陳列されている。館内には健康をチェックできる器具やエクササイズができる器具まである。大和市は健康都市宣言を謳い、高齢者の健康維持で治療費などをおえる運動を展開中だ。その他に託児所施設も。一日中いても飽きない図書館だ。この図書館の詳細情報はこちらが参考になる。

→https://www.trc.co.jp/topics/event/e_yamato.html

【ヘルシンキ中央図書館 Oodi】



【写真: 建設中のヘルシンキ中央図書館 Oodi 2018年8月22日小社編集部=撮影】

下記は小社編集子のレポート。

今フィンランドのヘルシンキでは2018年12月5日開館予定で新図書館ヘルシンキ中央図書館 (<http://www.oodihelsinki.fi/en/>)が急ピッチで進められている。公共図書館のシンボルが生まれ変わるのだ。北欧図書館視察団は、特別にその図書館建設の最後の工程を現場に入って見せてもらった。安全防具を装備して見た内部は木製の床や張り巡らした配線があちこちに、まさに仕上げ一歩手前の作業である。なぜこんなことまでして潜入したのか。そのわけは3階にあがってカフェテラスになるデッキにさしかかったときの景観でわかった。360度とまではいかないが、街の歴史的建造物が独り占めできる、まさに圧巻の景色がそこにあつたからに他ならない。先ほど見て歩いた大聖堂・元老院ももちろんのこと、ミュージックホール、フィンランドシアホール、カンピ太聖堂などが見える、色鮮やかな絵葉書でも見ている光景が広がっていた。しかも夏雲がぐっつきり、ムーミンさんやマリメッコさんに、なぜかボンジュールと言いたくなった。まだ行ったことのないパリの屋根裏からの光景と、あるいはこれまた行ったことのないタリンの中世風の町並みの光景を思い浮かべていた(今はWEBCAMなどで生中継されているのでリアルタイムで見られる)。この新図書館の外観もまた、船体風の曲線が優れたデザイン力を発揮している。まだまだ建設途上だが出来上がりが楽しみである。案内人の現場監督はユーモアを解する朗らかな人それにスラッとした優しそうなお図書館人、フィンランド人の心意気に触れた思いだった。さて、新図書館のコンセプトは木の温もりを感じながらいろいろな機能を楽しめる空間(仕事、読書、交流、遊び、カフェ、サウナ併設など)にしたいらしい。



【写真下: 現在のヘルシンキ中央図書館 Oodi】

【編集後記】

公共図書館向け新しい切り口の小冊子、「LIBRARY NOW」をお届けします。今回取り上げたヘルシンキ中央図書館(Oodi)では北欧最先端のハートのある図書館建築とデザイン力を魅せつけられた感じです。一方、大和市立図書館の試みも画期的です。2館に共通しているのは利用者への配慮でしょうか。読書する楽しみを共有する公共施設の新しい形の出現です。(K)

〇ヘルシンキ中央図書館の記事の一部は、PR TIMES やヘルシンキ中央図書館のWEBPAGE から引用したものです。

LIBRARY NOW

2019年2月28日発行

編集——(有)クロスカルチャー出版

LIBRARY NOW 編集委員会

〒101-0064 東京都千代田区神田猿樂町2-7-6

電話 03-5577-6707 ファクス 03-5577-6708